

原発避難の今を聴く

「出会いと共生 福島・東京
子どもたちの未来を考える」

二〇一一年三月十一日、原発事故から六年。被災し、現在も家に帰れない人は十万人を超え、東京にも六千人強が暮らしています。二重生活の長期化で心身に変調をきたす人が増え、「避難者いじめ」も表面化してきました。自然災害多き日本では、誰もが、いつなんどき「原発避難」に陥るかもしれない状況にあり、他人事ではありません。福島から避難されている方から問題提起を受け、子どもたちの未来をともに考えます。

基調講演

「今は帰れません！」の現実
市村 高志さん

(NPO 法人「とみおか子ども未来ネットワーク」理事長。
著書『人間なき復興—原発避難と国民の不理解をめぐる』他)

レポート

- ①避難区域の変遷と帰還政策
- ②原発避難者の置かれている現状

トークセッション

ゲスト

- 市村 高志さん (福島県富岡町から家族で避難中)
鹿目 久美さん (福島県大玉村から母子避難中)
根本 敦子 (福島県いわき市出身。たねまきネット事務局。一般社団法人 OJONCO 代表理事)

コーディネーター

- 遠藤 良子 (たねまきネット事務局長。Jikka 代表)



写真提供…小池友美「穏やかな光」より

2017年2月25日(土)

14時~18時 (開場 13時半)

コミュニティスペース旭通り

(国立市東 1-14-7 JR 国立駅南口 徒歩 3分)

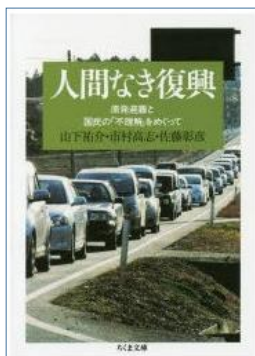
資料代 1,000円 交流会費 1,000円

予約・問合せ 080-4351-1353(狩野)

ファックス 042-573-4010



主催 福島とつながる種まきプロジェクトネットワーク
協力 恵泉女学園大学 / 「福島キッズキャンプ」実行委員会



基調報告 市村 高志 (いちむら たかし) さん

1970 年生まれ。福島県双葉郡富岡町住民。現在、東京都に避難生活中。NPO 法人「とみおか子ども未来ネットワーク」理事長。著書に『人間なき復興—原発避難と国民の「不理解」をめぐって』(山下佑介・佐藤彰彦と共著。ちくま文庫。2016 年刊)、『ゴーストタウンに死者はいない』(小熊英二編著)に寄稿、「私たちに何があったのか」(『現代思想』2013 年 3 月号) など。

ゲスト 鹿目 久美 (かのみ くみ) さん

原発事故後、福島県安達郡大玉村から、実家のある神奈川県相模原市に、母子で自主避難を継続中。「母ちゃんず」で保養の活動をおこなっている。心理カウンセラーの資格と知識を活かし、三色パステルアートを通して心に向き合う活動なども始めている。

タイムスケジュール

- 13:30 開場
- 14:00 主催者あいさつ
レポート
①避難区域の変遷と帰還政策
②避難者の置かれている現状
- 14:15 基調報告
「今は帰れません！」の現実
- 14:30 トークセッション
途中休憩 (10分)
- 16:20 交流会&ミニライブ
手作りのお食事を囲んで
フリートーク
- 18:00 終了

フォークによる
イサジ式
イサジさん



イサジ式 (イサジ ツトム)
福島県いわき市小名浜生まれ。3.11
後、アルバム『いつか来た道』発表。

福島とつながる種まきプロジェクトネットワーク

2011 年、福島への長期支援のため、市民活動ネットワークを活かして発足。南相馬市の高校生、有機農業者を招き、「生の声を聴く」開催。国立に避難されている方と畑を耕し交流。以後、定期的に福島を訪問、恵泉女学園大学(東京都多摩市)と連携してキッズキャンプを開催し、福島の子どもたちを受け入れている。

ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/fukushima-tanemaki>

F A X 申込書 042-573-4010

お名前 _____

食事 要 ・ 不要 _____

どちらかに○をして下さい

ご住所 _____

連絡先 (☎・e-mail) _____